

分会ニュース

研磨子落失・社員に明らかにする前に担当者の責任追及か？

11月5日、JR西日本の岡山支所で、11月1日に大二両で交番検査を施行したZ21編成3号車No. 2研磨子が無い状態で発見された。

会社は6日に突然、その号車を担当したB担務者とC担務者を交番検査の業務から外し事情聴取を行いました。さらに、相互チェックを行った担当者も担務を外され状況を聞かれました。社員への事態の連絡は11月7日の、始業点呼で研磨子落失の報告がされました。

会社は何を問題としているのか！

6日の始業点呼では研磨子落失の事態は一切報告されていません。しかし、研磨子落失は全社員に早急に伝える重要な問題です。しかし、会社はこの事態を社員に明らかにせず、いきなり担当者の担務を外し事情聴取を行いました。何も担当者が知らないうちに責任だけを追求し犯人に仕立てようとしているとしか考えられません。卑劣なやり方ではないでしょうか。

落失した研磨子はどこへ、取付け方法の構造的欠陥では？！

今回、研磨子が落失したZ編成は、車輪踏面清掃装置の研磨子の取付け方法が「研磨子吊りのない方式」に変更になっています。従来の車輪踏面清掃装置はピン受けにコッターピンがハマリ、外れたとしてもコッターピンが抜け落ち無い限り、研磨子は絶対外れません。二重の安全構造で0系時代から実績のある方式です。今回の「研磨子吊りのない方式」は上下の爪の返りだけで研磨子を止めており、爪の返りや何らかの異常があると外れるという構造になっています。

交番検査では、研磨子取替を行ったさい、相互チェック者を含め4名の社員が研磨子を取付けている事を確認しています。取付けていないということは考えられません。しかし、会社はこの「研磨子取付け方法」の構造を問題にせず、ただ「作業ミス」だけにしてしまいたいようです。

十分な教育と見習等が不足か？！

そもそも「N700編成の教育が30分しかやられていない事」「現車見学・現車訓練はなされない事」、しかし「事故が起これば社員のミスとして責任を全て押しつける」会社の体質など徹底した原因追及をせず、社員への責任追及では、現場で働く社員はたまったものではありません。安全確保のためにも、会社は研磨子落失の徹底的な原因究明、そして対策を出すことが一番にする使命ではないでしょうか。

大二両の社員の皆さん。この様な要因は私たちの廻りに沢山あり、いつ何時我が身に降りかかるかわかりません。我が身を守る方法は、充実した教育と見習いを個人・組合で会社に要求し、何か起これば社員に責任を押しつける会社の体質を変えるしかありません。